

SHINCLUB72

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450 URL:http://www.esna.co.jp



今月のトーク/monthly talk

blocco全景 写真:Kazuo Fukunaga

再現性

「blocco(王子集合住宅)」の内覧会に行ってきました。先月号でもお知らせしたとおり、雑誌『CASA BRUTUS』で”2006年の大発明”と言われた「十字プラン」が大きな特徴です。

A棟とB棟の2棟が、Vの字に並んで通路で繋がって建っています。1フロア3棟ずつに分けられた各棟は、エクステンションボリュームと呼ばれる中央を貫く基本の空間に、直角に交差する空間が十文字の形を形成し、普通では見られないプランの部屋を作っています。

各部屋を回り始めて気が付きました。シンプルな構成だと思っていたら、一つとして同じレイアウトの部屋がないのです。基本はワンルーム・スタジオタイプですが、ある部屋は浴室にゆとりがあり、ある部屋は土間部分が広めにとってある。ある部屋は広々としたリビングがあり、ある部屋は天井が高いなどなど、とにかく、どの部屋も与えられた条件をマイナスにすることなく、異なった個性を発揮しているのです。

特に、両隣にはさまれた部屋が、十字プランで設けられた窓のおかげでとても明るく、気持ちがいいのに驚きました。普通の集合住宅では、ありえません。

また各部屋の窓から見える景色は、真四角だったり、横に小さく広がったり、そこから見える景色を計算に入れ、また室内への光の入り方が一番効果的のように、配分されています。

十字プランの部屋の外部に相当する空間は吹抜になっていて、その床部分は、普通なら共用スペースかデッドスペースになるところ、隣接する部屋の間領域として専用スペースに加えられているので、日照で不利な下の階でもなんだかお得感があります。

いろいろな要素を指折り数えながら、さて、この建物を説明するのに、ひとくりにする言葉がないのに気が付きました。そして、新しい部屋に入っていくたびに、前に見た部屋が思い出せなくなっているのです。私自

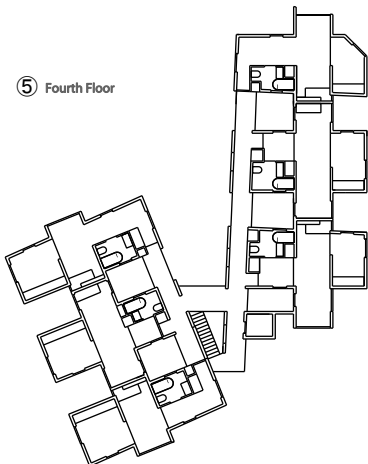
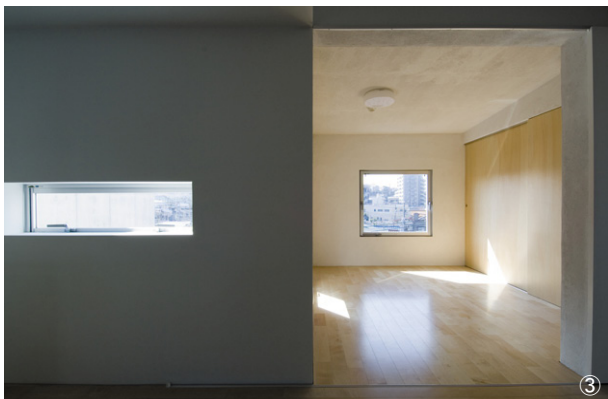
身の年のせいでしょうか。いえ、私だけではないようです。他にも、既に見たはずの部屋に戻って、もう一度レイアウトを確かめる人の姿を何度か見かけました。プランの多様性に、普通の人は頭がいっぱいになってしまうのです。

建物や空間を記憶にとどめるには、ある程度の滞在時間が必要です。そして豊かな空間は、刺激となり、そこにいるものに新たなイメージを想起させます。「こんなところはこういう風に使ったらどうか」と自分の中に空間を引き寄せて、新たな想像の世界への入口とするのです。ひとたび想像の世界へ踏み込んだら、ほかのものは居場所を潜めることになってしまいます。ひとしきり、思いを馳せ、扉を閉めて次の空間へと進むと、また新たな刺激を受けます。それは楽しい時間です。楽しい時間が次から次へと訪れ、この集合住宅の中で私たちは、たくさんのイメージをもらうことになりました。

人があらたに空間を記憶に刻むのは、何か引き付ける魅力があるからでしょう。または、そこでの時間の積み重ねが、その人の記憶となります。それらの記憶を再現できることは、豊かな体験にほかなりません。豊かな時間の再現なので、その記憶がほかの人と共有できるものであれば、なおさらです。

「街の記憶」「古い街並の記憶を生かしたまちづくり」という言葉を、最近よく耳にしたり、目にしたりします。ほんとに、豊かな体験となる再現性がそこにはあるのでしょうか。個人的な情報である記憶ですが、共有できていると信じているものは、一体何なのか。頼りなくなる一方の自分の記憶力を実感しながら、考えてしまいました。

blocco (王子集合住宅) 新築工事



多様性を持つ楽しい集合住宅

2004 TPOレコメの受賞作品。コンペの時は「スローライフ」がテーマで、今までの集合住宅の住まい方とは質的に違うものを出したかった。エスティック(美学的)なもの、すごくよかったものを押し付けないう、「十字プラン」、「分棟形式」、「内部の庭」などが生活の基本水準に直接フィードバックするよう、心がけた。

人の暮らし方にもいろいろある。今回は「十字プラン」というモデルはあるが、それをスタンプ式に押しつけて同じような住戸が連なるのではなく、いくつかのバリエーションが展開されているものもいい、と考えた。それら個性的な住戸が一つの集合住宅に展開している方がいい、と感じた。

40㎡、1LDKという広さは、とりあえずベッドルームは確保できる。しかしそれほど広いというわけではない。寝室で休んでいないときは、その寝室スペースも活動スペースに参加させシェアする、曖昧にベターと広がっているものを作りたい。但し、単なるワンルームではなく、いろんなアーティキュレーション(分節)というか、キャラクターの違いを出している。場所ごとに条件が違うので、窓の切り取り方、その窓から見える景色、天井の高さなど含めているようなキャラクターが点在しているようなものを作りたいという思いが基本にあった。

賃貸で、25~29戸という、全部の部屋が魅力的でなければならない。個性的にした分、ある部屋は「ごめんなさい」という犠牲は避けたかった。

壁は「ひる石(昔、公団などでよく見られた。)の左官仕上げ」だが、特に手仕事にこだわる趣味は持っていない。経済的な理由からだ、コンクリート打ち放しの壁にすると一つは音の問題がある。左官仕上げは吸音効果があるし、クロスやベニヤを貼るよりは多少汚れがあってもそれが風合いになる。白い壁に見えるが微妙に色を入れて、真っ白ではない。

同様に、型枠の仕上げも安い。ラワンベニヤの型枠の打ち放しは、化粧型枠の打ち放しより、マシである。自分は建築を基本的には塊で考えるので、それが肌に合う。やっつけて自分の中ではきれいなものよりしっくりいく。

各住戸の玄関に設けられた「土間」は住戸により異なるなんともいえない広さ。そこにも窓があったり、電気コンセントがあったり、照明があったりして、靴で生活する、アクティビティの可能性を感じさせるかもしれない。全部がモルタルではなく、ある種の分節があるのだけど、ルーズなところがうまくいっていると思う。

また、生活しているうちに、どうしても普通の賃貸ではこぼれてくるものがある。室内で引き受けられない、ほんとは居住空間では見ないで済ませたいものも、今の日本の集合住宅では室内に入れざるを得ない状況がある。土間やテラスなどのパッパゾーンが、これらのものを引き受けてくれる。

3年前にイタリアに暮らして感じたことだが、集合住宅の住まい方が成熟している。その経験のある程度参考にして、日本でも、それほどスタイリッシュでなくても、そのような生活を楽しめるという水準の集合住宅が増えていけばいいと思う。

1階の表通りに面した部分には、外部から直接アクセスできるコートタイプの住居もある。SOHOとして利用していただければと考えている。

(長田直之氏談)

① A棟(右側)とB棟(左側)を臨む全景。②B棟正面。1階のエキスパンドメタルの扉がコートハウスタイプの102号室の入口。外壁の飛び出している部分と引っ込んでいる部分を持つ十字プランであることがわかる。各住戸の窓もランダムに配置されている。③A棟304号室。両側に部屋を持つ住戸は、普通一箇所からしか採光が取れないが、十字プランのおかげで明るい。④A棟からB棟に向かう5階通路。右へ向かうとEV、左へ向かうとB棟の3つの住居にアクセスする。正面の空間は吹抜で、下階ではテラスになっており、隣接する住戸のエントランステラスとなっている。⑤4階プラン。左側がA棟、右側がB棟。

所在地: 北区
構造: RC造、地上5階
用途: 共同住宅
設計: 長田直之/ICU+
竣工: 2006年1月
写真: Kazuo Fukunaga

kh 新築工事



所在地: 目黒区
構造: RC造、地上2階
用途: 専用住宅
設計: 長田直之/ICU+
竣工: 2006年2月
写真: Kazuo Fukunaga

①全景。住宅街の小さな通りの三叉路に三角形の形を生かしたコンクリートの外壁が、存在感を示す。②2階、リビングダイニング。大きく開かれた開口部と天井の高さが狭さを感じさせない。③2階LDの反対側。白い壁の左側が下り階段。④2階のキッチン側から三角形の先端への眺め。

プライバシーと開放性が調和する住宅

小さい敷地ながら、採光と通風の機能を生かした美しいフォルムが、建て主の戸建住宅への思いを豊かに実現している住宅である。

13坪の三角形の狭小敷地に、9坪の平面が2層あり、先端部は、白い中庭になっている。この中庭が、反射した光を室内の奥深くまで届けている。

2階部分は、キッチン、収納などの部分と三叉路LDがある。1階部分は、寝室と収納、水廻りがになっている。

狭小の住宅でありながら、質的にも空間のディメンションも異なる多様性がある。



長田 直之 (ながた なおゆき) profile

1968年	愛知県生まれ
1990年	福井大学工学部建築学科卒業
1990-1994年	安藤忠雄建築研究所勤務
1994年	ICU共同設立
2002-2003年	文化庁新進芸術家海外留学制度研修により フイレンツェ大学へ留学
主な作品	
「邯鄲ハウス」、「Nishino Anex」、「Ig」、「Na」、「yh」、「Ca」、「TO」、「Sg」、「CUR」、「SHG」、「otto」。	
受賞	
1995,96,99年	SDレビュー入選
1999年	JCDデザイン賞優秀賞
2001年	北陸建築文化賞受賞
2004年	TPOレコメ2004 最優秀賞

—今月は、「blocco(王子集合住宅)」「kh」の設計者、長田直之氏にお話をうかがいました。

—建築家になりたいと思われたのはいつごろですか。
長田:小学校6年生の修学旅行で、京都国際会議場(設計:大谷幸夫)を見たときです。でも中学校時代は卓球に明け暮れて、全国大会にも出ました。高校では普通に勉強してましたね。それで大学で建築学科に入って、1年生から安藤事務所でバイトしていました。

—どういう経緯でそういうことになったんですか。
長田:高松伸の事務所でバイトしていた先輩が「福井でただ勉強だけしてたらだめだ」というものですから。「オープンデスク」といって、見習い学生のための机が用意されてるんです。薄給ですけど。いつも4、5人学生がいました。関西の学生は週1回通えますが、僕は福井だったんで、夏休みとか春休みのたびに行って、模型作りとか、ドローイングを描かせてもらいました。10mの絵を延々と描いたこともあります。

—でも、有名な先生の事務所で学生の頃からすごい仕事を目の当たりにされて・・・。
長田:いや、もちろん有名でいらしたけど、まだ仕事の規模は今ほどではありませんでした。僕が入った頃は、大阪ではガレリア・アッカなどの商業施設が主でした。大学を卒業してスタッフとして入所したときには、公共建築を手がけられ始めていて、建物の規模も数十倍になってました。建坪1000㎡の規模から、いっきに何万㎡の仕事になっていった7年間を経験させてもらいました。時代もバブルでしたし・・・。

—そして独立されたんですね。
長田:規模が大きいので、ひとたび仕事につくと4、5年かかります。ちょっと早いかな、もう少し何年かしようかなとは思ってたけど、仕事に入るとやめられませんかからね。次のチャンスは5年先になると思って。独立してからは、SDレビューなどのプロジェクトに入れていただけたらして、何とかやっています。

—そして、TPOのレコメで東京に進出されたわけですね。関西と関東での違いというのはありますか。
長田:関西では情報が仕事に直結しないんです。東京では建築ジャーナリズムなど、メディアの情報の評価が関西と違う。

—情報が直結というと、具体的にはどういうことですか？
長田:雑誌などに作品が掲載されても関西では反応が鈍い。東京では、仕事に直結しなくても、とりあえず「見ましたよ」という声をかけられる。リアクションが早いですね。

—独立されて10年過ぎて、今回東京にも事務所を開かれましたね。
長田:去年からです。ほとんど連絡事務所ですが、ちょっと打ち合わせをする場所も必要になってきたし、今回のTPOレコメの「blocco」のあと、いくつか住宅をやることにもなっていますから。

—設計で個人的に心がけていることはありますか。
長田:シンプルでミニマルが一方にあるとすると、僕がやらなければならぬと感じているのは、経験が多様で重層的な空間をつくることです。

「blocco」の十字プランにしても、全体をいっぺんに見られるわけではなく、全体の印象は、個々の住居を見て廻って、最後に組み立てられるものになっていると思います。

見学していた人が内覧会で、「最初見た部屋を忘れてしまったので、また戻ったよ」とおっしゃっていましたが、基本的にはちょっと見ただけですぐに空間全体を把握できないように作ってあるんです(笑)。意図的にそう作っています。

見てすぐわかるような建築は作りたくないと思っています。建築の経験というのは、基本的には時間をともなって、ある程度の長いスパンをかけて行われるもの。実際、その部屋で生活するとか、住宅なら何年にもわたって住み続ける中でわかってくることもある。「シンプルな部屋の中でもいろんな経験は起こる」というのは片方ではわかるんですけど、僕はいかに飽きないように居住空間を作るかを心がけています。いい絵って、飽きないし簡単に再現できない。ディテールがどうなっていたかなど思い出せない。見てすぐまねできるなんてあまりいい絵じゃない。建築も再現性は遅れてやってくるものです。できるだけ咀嚼しながら、反芻しながら、自分がした経験と呼び戻していくような建築、ジワーと効いてくるような建築がいいな、と思います。

—これまで建物をひとくくりにして「コンセプトは？」とただ単純に質問を発してしまいがちな自分があったなど、改めて反省させられました。
長田:基本的には「コンセプトは何ですか」と聞いて、「コンセプトはこうです」という答えを聞いたら、実際の建築にそのコンセプトをいかにわかりやすく実現しているかという判断をしがちでしょう。でもコンセプトのために設計しているのではないし、建築のためにコンセプトがあるのであって、僕らを含めて、今の建築ジャーナリズムは逆転しているという危機感が僕にはあり、それはまずいと感じています。逆にちゃんとやりたい。じーっとそこで空間を経験し、後から良さが湧き出てくるような建築を作りたい。

建築というメディアは、言葉にできない、ある種の複雑さを引き受けて作っているものです。「kh」も狭小でありながら、流動的であるよう、きちんと考えて作っています。リーズナブルだけどリッチで、ある種の豊かさを感じてもらえると思っています。

本来僕は優柔不断で、ひとつのことに決めていくのはいやです。なんかの都合でつまづいたら、終わりというのでは困る。ある種の幅、多様さがないと、建築は長持ちしない。10年たつて自分の建物を見に行くと、それなりにそのときに考えたこと、味が染み出ているのがいい。建てたときが一番良くてあとはだめ、というのではしょうがないのではないのでしょうか。

—今、そういう意味では時間を大切にしている風潮は出てきていますよね。
長田:住宅の空間をモード化しているのが、気になります。ファッションのように短いサイクルだし。ある程度、流行に遅れていてもかまわないと思いますね。今回の「blocco」のように、左官を今頃やるというのもある意味遅れてる。コンクリートのラワン仕上げにしても既に遅れてる。今の先端は鉄板使いですから。僕は、周回遅れでもいい。わかっていますから、何を言われても結構です。(笑)

—どうもありがとうございました。



二月二十二日(水)
今日は暖かく作業もしやすかったが、やはり夕方になるとまだ肌寒い。

千駄ヶ谷のKビルの現場には荷揚げのクレーンがないため、鉄筋材の荷揚げはレッカー車での作業となる。小さな通りの作業は、近隣の迷惑にならないように気を使う。本日は2階床梁スラブの搬入、取付け。及び梁、柱の圧接作業をおこなった。

二月二十三日(木)
本日は階段型枠の建込み作業。配筋検査、中間検査も近いため、自主検査を行う。

二月二十四日(金)
午後より生憎の雨模様。まだ雨が降ると寒い。

一時より設計事務所の配筋検査を行った。スラブの配筋が未完の箇所があったので、次回の検査は配筋の完了を目指そうと思う。

二月二十五日(土)
十時半より、イーホームズの間際検査があった。建物の配置、二階床梁スラブの配筋の検査をした。検査はいつも緊張するが無事合格となり、少しほっとした。

検査員にもよると思うが例の事件により、検査内容も厳しくなってきたと感じた。

二月二十六日(日)
本日の現場作業は全休。明日は一階のコンクリート打設作業になるが、朝からこの雨模様。午後には本降りとなり、本日に明日は晴れるのか心配になってきた。明日は晴れの天気予報を信じて、休んだ。



佐須 正和
ますます感じる
品質管理の重要性

いつもの事(仕事の流れ)ではあるが、やはりコンクリート打設は緊張する。

構造計算偽造事件の後、ますます「品質管理の重要性」を認識するよう、社内では言われている。これまで素人と言われていた一般の人たちの、建築現場への関心も高まり、構造的な不備でなくともあらゆる場面に對して、説明責任を要求される。

現場サイドでは設計の図面通りやるのが基本だが、クレーンを受けないように、また疑問に思われたことにもすぐに回答ができるように、写真を撮るなどの保全を怠らない。

うちの現場の配筋は、多すぎることはあっても、少ないということはずまない。チェック体制を強化して、職方、設計、そして我々の協力体制をゆるぎないものにするよう設計の先生からも強く求められている。大手建設会社では常識となっていることも再確認し、職人にも「他人事ではない」という意識を徹底させていきたいと思っている。

二月二十七日(月)
昨日の雨もすっかり上がり、コンクリート打設を行った。
小型ミキサー車十一台分と規模は小さいが、打放しコンクリートのため、自分も、たたき棒を持つての作業に参加。約半年ぶりのコンクリート打設だったので、終わった時は少し疲れた。
きれいに入っているかどうか、二日後の型枠解体までの間が一番どきどきする。
明日は足場の組立てを墨出しの作業予定。あと二回はこの作業の繰返しを行う。

1968年生まれ 神奈川県出身

日本大学理工学部建築学科卒
趣味:オートバイ、映画鑑賞

担当した主な物件(設計者)
シャンプレッテ・パ・ド・ドウ(島村肇)
成城の家M邸(高田光雄)
青山Pビル(大堀伸)
H-House(大堀伸)
延命寺庫裏増築(石川倬)

TOPICS/INFORMATION

「(仮称)PSビル 新築工事 地鎮祭」
3月3日 品川区



再開発中の武蔵小山駅前に、50年続いたレコード店が、再びお店を開きます。

構造:RC造 地上6階 地下1階
用途:店舗・住宅
設計:アトリエエスタス建築設計事務所
完成予定:2006年12月

「Moderna (TS集合住宅)」 港区白金6丁目 入居者募集中

外苑西通り恵比寿3丁目交差点から徒歩2分、首都高2号線のすぐ近くに、コンクリート打ち放しの賃貸集合住宅ができました。外断熱工法、エアコン・床暖房・ウォッシュレット・洗濯乾燥機・浴室乾燥機、CATV、NTT B-フレックスなど充実した設備、サービスに加え、セコム指紋センサーなどセキュリティにも配慮しています。どうぞお問い合わせください。

構造:RC造
規模:地上6階 地下1階
用途:共同住宅
設計:渡辺真理+木下庸子/設計組織ADH
竣工:2006年3月
※お問い合わせは下記へ
タカギプランニングオフィス
TEL:03-3560-1861 FAX:03-3560-1862
URL:http://www.t-p-o.com



編集後記

・「blocco」の内覧会には、100人以上の方が訪れたそうです。入居希望の方々だけでなく、建築家の先生方の顔もたくさん見られたとか。賃貸料も王子という場所柄、都心に比べ、リーズナブル。こちらもお問い合わせは上記のタカギプランニングオフィスです。